

あなたの住んでる

千川地域の避難所はどこか知っていますか？

避難する場合、どの避難所に行けばいいんだろう・・・



千川地域では、千川小学校と武蔵野北高校が避難所に指定されています。

前回の防災ニュースで千川小学校の避難所を紹介しました。

今回は、武蔵野北高の避難所の紹介と併せて二つの避難所の特徴についてお知らせします。

武蔵野北高の避難所として使用できる施設は、予め東京都と学校で取り決められた場所になります。

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| ・1階体育館       | 一般避難者の居住場所        |
| ・1階柔道場（畳敷）   | 高齢者等の居住場所         |
| ・1階剣道場       | 妊婦乳児連れの居住場所&女性更衣室 |
| ・別棟2階トレーニング室 | 避難者の居住場所予備        |

武蔵野北高

避難場所



\*他に、1階和室を避難所運営本部に一部を救護・相談室に使用する予定です。

\*東京都からの指定で帰宅困難者の受け入れも行います。

## 二つの避難所の特徴

	千川小学校	武蔵野北高
一般避難者居住場所	地下1階体育館	1階体育館
体育館受入可能能力	260人	200人
食料の備蓄	5~7日分	5~7日分
一時集合場所	校庭	校庭
ペット用スペース	あり	なし

## 自分たちが出来ること

- ・どちらの避難所に行くか家族で決めておく
- ・飲料水、必要な生活用品の準備
- ・必ずブレーカーを落として避難する

どちらの避難所も「授業の再開」を最優先とします。

実際に避難所を開設・運営するのは、地域の住民＝自分たちです。

避難所運営本部長の下で、少しでも速やかに作業ができるように作業手順書を作成して二つの避難所に置いてあります。

避難所は、家の倒壊や焼失により自宅で生活できなくなった人たちがしばらく生活する場所です。武蔵野市の地域防災計画では「自宅での生活継続ができる自助の推進」を掲げています。

千川地域防災会も発足当初から「在宅避難生活」を皆さんにお伝えしています。

自宅で生活が可能の方は、ぜひ「在宅避難」をお願いします。

いざという時のために、ご自分の家庭での備えを再度点検確認して「在宅避難」を推進しましょう！そして

ご近所同士の助け合い「近助」のつながりを大事にしていきましょう！

# ★★千川地域防災会 活動報告★★



## 10月27日 武蔵野市総合防災訓練に参加（メイン会場＝桜野小学校）

- ・「避難行動要支援者対策訓練」と「要配慮者トリアージ訓練」に注目して参加しました。「避難行動要支援者対策」と「要配慮者トリアージ」は、これから地域で皆さんと一緒に考えていきたい重要なテーマです。

### \*「避難行動要支援者対策」とは？

災害対策基本法の一部改正により、災害時に自ら避難することが困難で、避難するのに支援を要する避難行動要支援者の名簿を市が新たに整備し、その名簿に基づき、各地域で該当する人たちの安否確認や避難支援を行う仕組みです。

現在、福祉の会が担っている「災害時要援護者支援事業」と共に、災害時に安否確認コーディネーターと避難支援コーディネーターの方々が支援者を募って支援する新たな体制に拡充されています。

### \*「要配慮者トリアージ」とは？

避難所には健常者だけでなく、配慮が必要な方も避難してきます。

配慮が必要な方への対応として市は主に3つのケースを考えています。

- ① 専門的なケアは必要ないが見守り配慮が必要な場合⇒避難所内の「思いやりルーム」で対応する。
- ② 専門的なケアが必要な場合⇒「福祉避難所」に指定された施設に搬送する。
- ③ ケガや病気等専門的な治療が必要な場合⇒病院へ搬送する。

避難所の受付において、上記3ケースのどれに該当するのか振り分けを行なうのが「要配慮者トリアージ」です。

## 11月15日 第2回防災会委員会を開催（会場＝八幡町コミセン）

- ・武蔵野北高と八幡町コミセンから、それぞれ防災についての話をいただきました。
- ・武蔵野北高は、多くの生徒が市外の地域から通学しています。授業中に発災した時は、多くの生徒が帰宅困難になることが想定されます。  
毎年1学年生徒を対象に1泊2日の宿泊訓練を行っています。今年は240名の生徒が参加し、災害用備蓄品で食事をして男子生徒は体育館で就寝し、一般避難者と同様の体験をしました。  
自分たちが帰宅困難となった場合、地域と協力して動くこと＝高校生は災害時に大きな力になることを生徒は訓練を通じて感じてくれたと思います。
- ・八幡町コミセンは、大地震が発生すると館が「地域支え合いステーション」になります。  
「地域支え合いステーション」は、主に被災生活の地域拠点として避難所を補完する機能を想定しています。具体的には、「在宅避難生活者」への情報発信などです。  
その他想定される課題については、地域の皆さんと話し合ってお対応していきたいと思っています。

### <編集後記>

千川地域防災ニュースは、多くの人の協力があって皆さんのお手元に届けられています。一人でも多くの人に読んでもらいたいなあ…一つでも役に立つ情報になるといいなあ…といつも思います。

一人一人が普段から意識していくこと、「自助⇨近助」でいざという時の備えをしておくこと等々、千川地域の「減災」につながる情報をみんなで共有していきましょう！

ご要望をお寄せ下さい。 千川地域防災会事務局 伊藤 090-2918-4432

